

小児リハビリテーション部

1. スタッフ（平成22年4月1日現在）

医師：1名 吉川 一郎（部長）
理学療法士：2名 寺門 大輔、高木 晶世
作業療法士：3名 黒淵 永寿、米澤 亜美、
漆畑 明子
言語聴覚士：1名 杉 直人

リハビリテーションとして広く世間に認知されるように
スタッフ一同、研鑽と努力を続けていきたいと考えてい
る。

2. 小児リハビリテーション部の特徴

1) 理学療法

運動機能の障害を援助しながら社会生活の自立を目標
に治療している。脳血管・神経筋疾患・運動器疾患など
が対象になる。必要に応じて、保護者へのアドバイスや
車椅子の作製、補助具作製を行う。

2) 作業療法

発達時期に障害をうけた子どもに対して、いろいろな
作業活動（遊びを含め）を利用し、基本的能力の治療・
訓練（麻痺による随意性の低下に対する訓練、筋力強
化、関節可動域の維持・拡大、認知・心理的機能の改善
など）、応用能力の訓練（上肢機能の改善、生活活動、
着替え・食事・排泄などの能力の維持改善）、自助具・
装具の作製や適応指導、車椅子・坐位保持装置などの作
成、社会的適応能力の訓練などを行う。また、たとえ障
害があっても、家庭や幼稚園、学校で生き生きと生活で
きるように、指導・援助を行う。対象は脳疾患・神経筋
疾患・運動器疾患や発達障害（自閉症、注意欠陥多動症
候群ADHD、学習障害、その他）などである。

3) 言語聴覚療法

小児期にみられる言語障害には①言語発達遅滞（難聴
に伴うものや精神遅滞、自閉症・広汎性発達障害・多動
といった発達障害に伴うもの、その他）、②構音障害（口
蓋裂、脳性麻痺などの器質因がある場合とない場合）、
③吃音、小児期の失語症などがあります。言語聴覚療法
では、こういった言語（発達）の問題について、各子供
の状況を評価（言語リハビリが必要かどうかも含めて）
し、その特性に合わせて言語リハビリの指導・相談を
行っている。特色としてコミュニケーション重視のアプ
ローチを行っている。

3. 事業計画・来年の目標等

センターがオープンしてから約3年半が経過したが、
これまでも小児科患者を中心に障害をもった子供とその
保護者に対して、懇切丁寧に対応してきている。今後、
患者数増加が必至であるが、高度な医療を行う小児総合